

氏名(本籍)	PANDIT Arpana (ネパール連邦民主共和国)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	甲第378号		
学位授与年月日	令和3年9月22日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項		
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻		
学位論文題目	Understanding people's prosocial attitude and behavior for the betterment of the society: Case studies in disaster resilience and waste management (人々の利他的な態度と行動: 災害へのレジリエンスと廃棄物マネジメントを事例として)		
論文審査	(主査) 高知工科大学	教授	中川 善典
	高知工科大学	教授	小谷 浩示
	高知工科大学	教授	中村 直人
	高知工科大学	特任教授	西條 辰義
	高知工科大学	教授	渡邊 法美

審査結果の要旨

1. 論文の評価

本論文は、①地震被災地域と、②一般廃棄物管理が不適切になされている都市という、まったく状況の異なる二種類の研究対象地において、人々が向社会的行動をとる条件や、その帰結について明らかにしたものである。一般に、向社会的行動は「Concern for distressed others」に動機づけられたものと、「Concern for doing right things in relation to others」に動機付けられたもの等に分類されることが多いが、本論文はそれらをバランスよく扱った。地震被災地域における研究においては、食料品や金銭をはじめとする物質面での他者への支援を受容することが精神的健康に繋がる一方、精神面のサポートに関しては、与えることと受け取ることの両方がある場合に精神的健康が向上することが発見され、この結果をいわゆる Equity Theory (人は対等な支援関係を他者と結ぶことに動機づけられているとする理論) に整合したものであると解釈した。一般廃棄物に関する研究においては、将来人の視点を仮想的に経験するフューチャーデザインの介入方法が、都市部住民による郊外の廃棄物埋め立て処分地周辺住民への向社会的意識を促進することが分かった。従来 of 行動変容研究においては、「規範を個人の中に内部化する」という介入方法が認識されていたが、フューチャーデザインの介入方法をこのカテゴリーのあらたなメンバーであると位置づけなおした点に、オリジナリティがあるものと認められる。一方、今後に残された課題もいくつか存在する。第一に、本論文では①の研究にフューチャーデザインの介入方法を適用することはなかったものの、Equity theory とフューチャーデザインとの融合の可能性について今後検討をすることに意義があるものと思われる。第二に、研究②において、組織ヴィジョンが組織メンバーに与える影響に関する既往研究と本研究との関係はもう少し明らかにする余地がある。第三に、研究②において、学歴の高さが向社会性に寄与をしているという発見について、もう少し踏み込んだ理由解釈の余地がある。第四に、研究②において若い年齢のほうがフューチャーデザイン介入によって敏感に向社会性を獲得しやすいという発見について、既存の発達心理学的研究との整合性を議論する余地があると考えられる。

2. 審査の経過と結果

- (1) 令和3年6月30日 5名の審査委員のもと協議され、博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定した。
- (2) 令和3年8月19日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 令和3年9月3日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。